

Vol. 193
April
2009

トピックス

関係機関との防災協力推進

衛星画像データの防災
利用事業について①

ADRC客員研究員レポート

アリラ・ウィジット
パッチャラポン (タイ)

お知らせ

↑ アジア防災センター
ホームページ改修

↑ 異動

Asian Disaster
Reduction Center
アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

●関係機関との防災協力推進 衛星画像データの防災利用事業について①

アジア防災センター (ADRC) は、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) と協力し、衛星画像データを活用した防災事業をアジア地域において推進しています。ADRCハイライトでは、2回に分けてその取組みについて紹介していきます。

1. センチネルアジア

大規模災害時に衛星写真及びその解析結果による災害情報をアジア、太平洋地域の国々に提供するため、アジア・太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF) によって防災支援システム「センチネルアジア」が提唱されました。

2006年10月から段階的に運用が進められ、運用開始されたステップ1は、2007年12月を以って終了しました。

ステップ1では、インターネットを利用した防災情報伝達システムを実現しました。2008年1月からステップ2に移り、新しい衛星通信システムによるセンチネルアジアの普及と拡大のために、現在、システムを開発しています。

現在、実施されているステップ2では、以下の点を中心に活動が行われています。

- (1) 現在、日本とインドの宇宙機関しか参加していないが、ステップ2では、韓国、タイの宇宙機関が参加する。
- (2) JAXAの高速通信衛星の利用により、データアクセス品質を向上させる。さらにミラーサイト*を整備して、アクセス条件を向上させる。
- (3) 付加価値の付いた災害情報を提供する。
- (4) ステップ1では洪水、森林火災のモニタリングに関するワーキンググループを設置したが、ステップ2では氷河湖を追加する。



[センチネルアジアのイメージ]

続き

氷河湖の拡大や、数の増加が既に観測されており、ADRCのメンバー国であるブータンにおいて、対応策の構築が緊急の課題になっています。

2010年以降に実施予定のステップ3では、災害管理援助システム（DMSS）の設立を目指しています。

2. 緊急観測

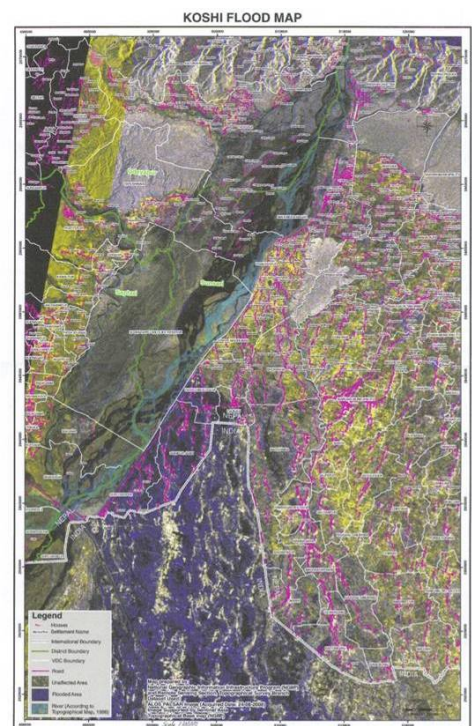
2008年度に、緊急観測の要求を受けた回数は、22回であり、そのうち緊急観測を実施したのは20回でした。

緊急観測は、ADRCの担当者が、被災国から要求を受けた時点で該当する災害情報を確認し、その要求が妥当であると判断できた場合に速やかにJAXAとインド宇宙研究機関（ISRO）に観測実施を要請し、緊急観測が実施されます。緊急観測実施後、画像データは速やかに緊急観測要求国へ画像が提供されると同時に、センチネルアジアのウェブサイトにアップロードされ、関係者が自由に画像データを入手できるようになっています。

右の図は、センチネルアジアより提供した画像データを用いて、緊急観測要求をした現地機関が作成した画像の例を示しています。この図は、2008年8月18日にネパール東南部スンサリ地方コシ川で発生した堤防決壊による洪水の氾濫範囲を示した図であり、センチネルアジアで提供したカラー合成画像をもとにネパール測量局が所有しているGISの情報を重ね合わせて作成されています。この災害でのセンチネルアジアからの情報提供に対して、ネパール水資源省から感謝の表明がありました。

次号では、本事業のフォローアップや今後の計画についてお知らせする予定です。

*ミラーサイトとは、ウェブサイト上のコンテンツにアクセス要求が集中してサーバーが過負荷で通信に遅延が生じたり、あるいは機能停止してしまうことを予防する目的で、元のウェブサイトと同一の情報を保持しているサイトのこと。



[コシ川洪水図]

●ADRC客員研究員レポート

アリラ・ウジットパッチャラポン（タイ）

こんにちは。私はタイから来たアリラ・ウジットパッチャラポンと申します。今年の1月から6月の間、日本の防災システムについて学ぶために、客員研究員としてADRCに滞在しています。

近年、世界中で前例のない大災害が発生しており、アジアでは地震、津波、暴風、干ばつ、洪水、地すべりなどによる被害を受けています。また他の地域でも様々な災害で大勢の人々の命が失われています。この30年以上もの間、アジアは世界の中で自然災害による被害が最も多

続き

い地域であり、ある統計によると世界で発生した自然災害による被災者数の約90%、被害総額や死者数も50%以上を占めています。さらに今後、自然災害は増えていく傾向にあると言われており、アジア諸国は早期に対策を考え、行動に移していかなければなりません。

アジアの他の国と同じように、タイも干ばつ、洪水、地すべり、寒波、火災、暴風といった自然災害の脅威にさらされています。タイは熱帯に位置し、国土は513,115平方キロ、人口は6,500万人となっています。また、ラオス、ミャンマー、カンボジア、マレーシアと国境を接しており、北部は山岳地帯、北東部は高原地帯、中央部は沖積平野、南部は原始林からなっています。

2004年12月26日に発生したインド洋大津波は、被害総額20億米ドル以上、GDP伸び率も0.4%の減少となる大災害となりました。大津波災害以前は、タイでは大規模な災害が発生したことがありませんでした。津波災害はタイに負の影響をもたらしましたが、一方では将来の災害への備えの重要性について思い起こさせてくれました。防災は途上国と先進国との相互扶助によって可能になると思います。幸いにも、アジアにはADRCがあり、防災における知識、技術、情報の交換が行えることは素晴らしいことです。

私は、来日前、タイの内務省防災局研究・国際協力部に勤務していました。主な責務は国内外における関係者間での防災活動の調整です。ADRCでの滞在期間中、日本の治水（洪水対策）について学ぶことを私の研究テーマとしています。洪水はタイにとって経済的損失という点から非常に重大で壊滅的な災害であることからこのテーマに関心を持ちました。日本は世界でもっとも洪水対策が進んだ国のひとつだと思っています。また、ADRCの他のメンバー国からも学ぶことを期待し、タイでの洪水対策向上のために多くのことが得られると信じています。ADRCの客員研究員として滞在している間、防災についての専門知識を学び、また、DDPMで学んでいることをADRCの活動の更なる強化と維持に活かしていけるよう、貢献していきたいと思っています。



*タイのカントリーレポート2008年度版（英語のみ）：

<http://www.adrc.asia/countryreport/THA/2008/thailand2008.pdf>

●お知らせ

アジア防災センターホームページ改修

アジア防災センターでは、2008年に開設10周年を迎えたことを契機とし、アジア太平洋地域を表わすドメイン「.asia（ドットアジア）」を取得し、アジア地域に焦点を当てた活動をより明確にすることができるドメイン「adrc.asia」を利用したウェブサイト（URL <http://www.adrc.asia/>）の提供を開始しました。

ウェブサイトでは、防災情報データベースを構築し、随時情報の更新をしながら、ADRCの活動やアジア地域の災害・防災に関する情報を提供していますが、2009年3月より、「メンバー国及びアドバイザー国の防災情報」を刷新し、また「ADRCの活動報告」のページを新設しまし

続き

た。
刷新された「メンバー国及びアドバイザー国の防災情報」のページでは、各国の概要、主な災害、防災に関する法律、組織、計画などの防災体制について簡潔にまとめ、利用者が容易に基礎情報を得ることができるようになりました。

また、新設された「ADRCの活動報告」のページでは、ブログによる情報入力システムを導入し、ADRCが行う活動を随時タイムリーで紹介していくことになっています。

<新しくなったADRCのホームページ>

●メンバー国防災情報

http://www.adrc.asia/disaster_j/index.html

●ADRC活動報告

http://www.adrc.asia/adrcreport_j/



[メンバー国防災情報]



[ADRC活動報告]

異動

2009年3月31日をもって角崎悦子・ADRC主任研究員が退職、また、田中修平・ADRC主任研究員が出向元の兵庫県へ、萱嶋聖志・国際復興支援プラットフォーム（IRP）研究員が内閣府へ異動となりました。今後のご活躍をお祈りいたします。

4月1日付で茨木徹雄がADRC主任研究員に、森本昌がIRP主任研究員に、ジェラルド・E・ポトゥタンがIRP特命研究員として着任いたしました。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。